

報道関係者 各位

2025年10月6日

取材のお願い

松山東雲短期大学 食物栄養学科が 文部科学省「全国学生調査」ポジティブリストに掲載 — 教育改善の優良事例として全国8校の一つに選出 —

2025年9月30日に文部科学省が公表した2024年度「全国学生調査（第4回試行実施）」の結果において、松山東雲短期大学 食物栄養学科が全国132の短期大学の中で12項目にわたり高い評価を受け、上位校として「ポジティブリスト」に掲載されました。

さらに、食物栄養学科の学生グループ「しののめベジガール」の取り組みが、教育方法や教育改善の優良事例として、全国の大学・短期大学672校の中から選ばれた8校のうちの1校として、文部科学省公式ホームページにも紹介されました。（[ポジティブリストの詳細は次ページをご参照ください](#)）

今回の評価は、教職員が一丸となって教育に取り組み、その姿勢に学生の皆さんがあこがれを抱いています。今後も地域に根ざした学科としての使命を大切にし、有能な「食のスペシャリスト」を社会に送り出していけるよう、教職員一同力を合わせて教育に取り組んでまいります。

◆ しののめベジガールについて

「しののめベジガール」は、松山東雲短期大学 食物栄養学科 田中ゼミ・亀岡ゼミの学生で構成されるチームです。今年で9代目を迎えます。野菜の帽子がトレードマークで、地元産野菜等を使ったレシピ開発を通じて、地域の健康づくりに貢献しています。



◆ 取材のご案内

【愛媛県産はだか麦をつかったお惣菜を開発中！】

「しののめベジガール」は、今年も（株）クック・チャム四国と愛媛県産はだか麦を使ったお惣菜を開発中です。

昨年度は「はだか麦入り肉団子」など3品が商品化され、メディアにも取材されました。

今回は、年明け1月（予定）の発売に向けて、以下の日程で最終試食会を実施します。この機会にぜひご取材いただけますと幸いです。



日 時：2025年 10月 8日（水） 16:50～17:50

場 所：本学 D館 2階 調理室

内 容：クック・チャム四国と共同開発中の愛媛県産
はだか麦をつかったお惣菜 最終試食会

※この試食会で販売レシピを決定予定



▶ 文部科学省「全国学生調査 ポジティブリスト」について

全国学生調査は、文部科学省が「学修者本位の教育への転換」を推進するために実施するもので、全国540の国公私立大学・短期大学の学生を対象としています。共通の質問項目を通じ、学生自身の視点から教育や日々の学びの実態を把握し、各大学・短大の教育改善や国の政策立案に活用されるものです。

今回公表された「ポジティブリスト」は、その結果に基づき、学生から高く評価を受けた上位校と、教育改善の具体的な事例を紹介するものです。本学 食物栄養学科は以下の項目で特に高い評価を得ました。

文部科学省のサイト

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/chousa/1421136.htm



▶ 食物栄養学科 ランキング結果 (調査対象 132校・248学科)

- 予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される …… 1位
- 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される …… 16位
- ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある …… 11位
- 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観 …… 9位
- 文献・資料を収集・分析する力 …… 16位
- 論理的に文章を書く力 …… 10位
- 人に分かりやすく話す力 …… 9位
- 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能 …… 5位
- 問題を見つけて解決方法を考える力 …… 9位
- 他者と協働する力 …… 4位
- 幅広い知識、ものの見方 …… 5位
- 卒業時までに身に付けるべき知識や能力を意識して学修している …… 16位

全国の大学・短期大学672校の中から8校選ばれた「しののめベジガール」の取組 紹介

松山東雲短期大学食物栄養学科：「実践的な職業能力の育成やキャリア形成支援・多角的な視野の涵養」に関する取組

学科の特色

食物栄養学科は、変動する時代に対応できる人間力を育む教育に注力しています。特に2年次の「卒業研究」では、学生は教員が提示した中から研究テーマを自由に選び、少人数グループで実践的な研究を進めます。地域課題解決への取組みを通じて、「東雲力（自ら考える力・挑む力・つながる力・やり遂げる力）」を涵養し、地域に貢献できる食のスペシャリストを育成しています。このPBL型教育による産学官連携を通じて、実践的な商品開発力、課題解決力、チームでの協働、地域貢献意識を身につけることができます。高度教育訓練給付制度などを利用した社会人が全学生の19%を占め、多様な年齢層が共に学ぶ環境も大きな特色です。

教育方法・教育改善の取組

「卒業研究」の一つである「しののめベジガール」活動では、県民の野菜摂取・朝食摂取向上に取組む中で「主体性の育成」に有効であることが示唆されたため、学科内で地域での産学官連携を積極的に推進しています。活動は寄付金等で賄われ、学生はレシピ考案・試作・評価・改善・企業との打合せを通じ、「活動していくうちに自信がつき、自ら積極的に行動できるようになりました。」「他者と連携・協働し最後までやり遂げる力が身につく等、栄養士として働く上でプラスになる多くの刺激的な学びができました。」と変動する社会で活躍できる資質の鍛錬を図れているようです。リメディアル教育や試験対策により、栄養士実力認定試験でも令和3年度より4年連続で全国表彰者(令和4年度は全国1位(満点)の成績優秀者1人)を輩出しています。



野菜帽を被って「野菜摂取・朝食摂取向上」に取組む「しののめベジガール」

出典 2024年度「全国学生調査（第4回試行実施）」

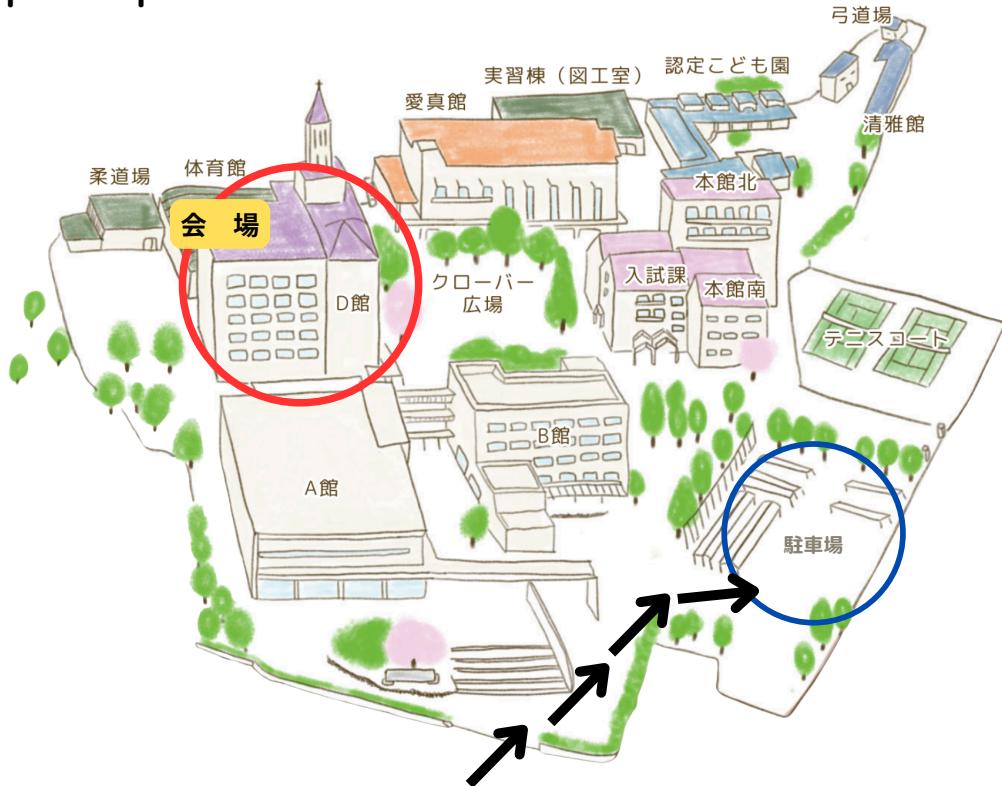
▶ ベジガール以外の食物栄養学科の活動事例



栗原ゼミでは、愛南町との連携協定の一環として、2023年度より「愛南マラニック」にてランナーにオリジナル補給食を提供しています。

2023年度は「しののめスポーツパンナコッタ」、2024年度は「鯛飯いなり with 愛南ゴールドジュレ」、2025年度は「鯛出汁のガスパチヨ」を開発・提供しました。愛南町の食材を取り入れ、スポーツ栄養に基づいたレシピによる補給食は毎年ランナーに大好評です。

Campus Map



※ 取材の際は、事前にご連絡いただけますと幸いです。

なお、本学ホームページに「キャンパス内の取材に関するお願い」を掲載しておりますので、併せてご一読ください。

【お問い合わせ・ご連絡先】

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学 広報

松山市桑原3丁目2-1 電話：089-931-6211(代)

Mail : kouhou@shinonome.ac.jp



大学HP 広報ページ